

名前：

インターネットが世界的に広がってから、もう十年ほどである。私は小さい時、また一生懸命本をよんでいたけれど、だんだん大きくなって、コンピューターの使い方を学べればならな<sup>か</sup>。そして、「インターネット」というものも有名になった。それというのはなん<sup>ほど</sup>でしかまたよく分っていなかった<sup>けど</sup>、その便利性をもうすこしづづ感じていた。

いま、インターネットはもう自由に使えるようになった。今の世界はインターネットがなかったら、すごい混乱になっ<sup>て</sup>た<sup>ら</sup>だろう。けれど、コンピューターは世界的に広がっていながら、情報はあんなに速いスピードで伝えているながら、本と新聞の価値は何だろうかという問題を考えさせられたのだ。

ある人は「インターネットでニュースを見ることが出来るから、もう新聞や雑誌はいらない。」と言う。私の考えはそうではない。インターネットの便利性は確にそのよさであるが、この「便利」は誰に対する便利だろうか。

またたくさんの方はインターネットが使えないだろう。うちのそばはコンピューターがぜんぜん使えない。もし新聞がなくなったら、そばは情報をえられなくなってしまった。台湾にいる老人だけに対してはもうそうだ<sup>ら</sup>。ほかの地区、たとえば台湾より貧乏な国はどうするのか、コンピューターを持っていらない人はどうするのか、というような考えを持っている。

私の自分の感性的な考えは、新聞や雑誌は必要である。どうし<sup>か</sup>か<sup>い</sup>うと、本や新聞に載せている文字はもっと感情がありそうだと思う。インターネットは万華鏡だといつもそう思っている。何んでもインターネットにもえらそうだけれど、毎回インターネットを消すと、なんかさびしい感じが心から浮上してしまった。インターネットの便利性はもうよく分かっていたが、だんだん新聞などは必要だ<sup>ら</sup>と思っ<sup>て</sup>な<sup>っ</sup>た。

本や雑誌と、インターネットとは価値がどれほど高いか。私はその判断の資格を持<sup>っ</sup>てい

1800字

題： \_\_\_\_\_

TM007jp

名前： \_\_\_\_\_

ないと思う。たぶん時代の過剰さによると、  
本などの価値は歴史が証明していこう。でも、  
私の意見は、新聞や雑誌がなければならな  
いと思う。